

元気な地域づくり 活動報告会

平成21年12月17日（木）13:30～16:30

横浜市健康福祉総合センター 4階ホール

事例発表

地 区 鶴見区 寺尾・寺尾第二地区

テーマ 「楽しみながら福祉のまちづくり」

発表者 石川 晴彦 さん
(鶴見寺尾地区福祉のまちづくり推進協議会会長)

石川 今、御紹介に預かりました石川でございます。

私どもの鶴見寺尾福祉のまちづくり重点推進地区は、横浜市でつくりました福祉のまちづくり推進条例に基づき、関内駅周辺地区、磯子駅周辺地区に続き三番目に推薦されました。そして、横浜市から事務局に対して財政的な支援、人的な支援を頂きまして、また、コーディネーターとして、後ほど登場されると思いますが、山路さんの助言を頂きまして、平成16年度からこの福まちの協議会の活動をいたしました。その後、活動を続け、約3年間の試行期間が切れまして、平成18年度で行政からの支援がなくなりましたが、せっかく皆で苦労しながら色々アイデアを募り、受け、活動していくということになっていますので、これで解散というのはしのび難い。せっかくやったんだから、みんなでこれからも色々協議してやっていこうじゃないかということで、財政的な支援はございませんでしたけど、みんなでボランティアの方々の御協力を得まして、今まで活動を続けてきております。

21年度には、「身近な地域・元気づくりモデル地区」の指定を受け、また新しい活動を続けるようになりました。通称「てらお福まち」という名称でやっております。

我々の組織は、代表者会、作業部会、それに基づくプロジェクト、となっております。代表者会は地域の代表、すなわち私どもの組織である自治連合会、寺尾地区自治連合会の7町会、それから第二地区連合会の8町会の会長さんに委員になっていただき、それと同時に地区の代表の方、民生委員とかその他の方々の参加を得まして、全部で地域代表の方が25名となっております。

その他に、関係団体の方が7名、事業者の方が3名、コーディネーターが1名、事務局が5名、計47名で代表者会を開催しております。開催は年に2回ほどで、6か月の前半の事業報告やその後の事業計画とか、色々な報告がされ、皆様方と色々意見を交換し、専門家の方々の意見も尊重して、より良き会にしていこうと進んでおります。

次の作業部会ですが、作業部会は、部長さん1名のみがメンバーの名簿に登録されてお

りまして、それ以外の方は、私どもの協議会の趣旨に賛同していただける方でしたらどんな様でも自由に参加いただけます。最初、始めたときにはほんの2、3名だったんですが、5年ぐらいたった今は20、30名くらいの方が集まりまして、席がないというような状況にもなっております。

作業部会で色々と発案された問題点について、プロジェクトチームを編成して、それぞれの専門的な立場から、どうしたらいいか、ああしたらいいかと討議が行われております。

私どもの住んでいる地域ですが、鶴見の寺尾地区は昔からの古い古い土地柄で、また、山坂の非常に多い地域です。鶴見駅から歩いて時間もかかりますので、バスを利用するような状況ですが、メインストリートが2本しかありませんので、バス停までの色々な道が大変狭く、非常に不便なところという印象を受けているところでございます。

また、最近の経済的情勢から、大企業が建物を売り、新しくマンションが建設され、続々とマンションができて、新しい方たちがそこに住まわれて、若い世代の地域ともなっております。その一方、昔から住んでいる方々の高齢化が進み、色々と問題が発生しているような土地柄です。

また、森林地帯が残っている地域が若干ありまして、そこは昔からの土地柄、まだ畑があって、色んな作物を作っているところもあります。森林や池もありまして、自然に恵まれた土地でもあります。

それでは、私どもが今まで実行してきたプロジェクトを、いくつか御紹介させていただきます。

まず私どもがこの会を開催するに当たり、我々の住んでいる町がどのような状態かを知るために、ただただ漠然と歩くだけではなく、老若男女、色んな方々に出席をしていただき、車いすの方がこうやって歩行されるとか、昔ながらの地籍とか、町がこんなにも狭いとか、歩道もほんのわずかしかないとか、町を見て歩きました。そんな中で、電柱があちこちに立っており、電柱のみならず防犯灯だとか、色んなものがありまして、歩行を妨げていることを発見できました。

そして、プロジェクトチームで皆で討議して、どうしたらいいかと色々研究しました。

ここはちょうど横浜の市立高校ですが、この地域は坂道があって歩道がほんのわずかしかない。バス停の標識がありますが、下校時の子供たちがここにいっぱいおります。この先にはスーパーマーケットもあります。さらに、最近この地域には住宅ができて、大変、人通りの多いところなんです。そこに生徒たちが集まると、もうここは通れなくて、こう回って引き返さなければなりません。そうすると、ここは交通の激しいところですから、色々事故も起きました。この点に関して色々討議し合いまして、関係各学校、教育委員会、土木事務所、警察、色々なところと接触し、区役所にも仲立ちしていただいて、関係者の協力を得まして、このような改良をいたしました。こののり地を拡幅し、この場所で子供たちがバスを来るのを待つというふうにしました。

次に、これは町の広場っていうんですか、危険なところをですね、皆さんが安全に通れるようにできないかと色々討議をしました。この道は坂が急で、昔は「鎌倉街道」と言いまして、非常に狭い道でございます。

しかも、このところに、ごみが置いてあったりして、歩道なんかほとんどないという、

ここから車が左折する場合には、ここに立っていると非常に危険であると聞いたものですから、この下のおりに歩道を設置しまして、皆さんが安全に通れるようにいたしました。

そして、次ですが、これは「小さいす設置大作戦」と言いまして、高齢者の方たちがいらっしゃった際に、「疲れてしょうがない」という声がありましたので、「じゃ、座るところがないか」ということになりました。この地域に住んでる大工さんなどの協力も得まして、バス停近辺のこの植込みの一部を除去し、板を置いて、いす代わりに利用していただくことにしました。これ以外にもまだ公園などでも色々設置しております。

これは、バス通り歩道のバリアフリー改善です。ここがバス通りなのですが、このように電柱があり、乳母車が通るのに危険です。それから、色々問題がありましたので、この電柱をどうにかできないか、ちょっとずらせば、ここをスッと通れるんじゃないかということで折衝しまして、ずらしてもらうことができました。

それから、今まで色々な発表をされたところと同じようなものなんですけど、この安心カード。民生委員の方たちの御協力を得まして、希望者のみですが、そのお宅に伺ったときに、血液型とか医者に説明するのに必要な色々な事項を書いていただき、自宅に置いていただきまして、万が一のことがあったら、私どもの参考にしたいという趣旨で、安心カードを作成いたしました。

それから、町を歩いておられますと、高齢者の方が住む個人住宅などでは、庭の草木の手入れが非常に少なくなりまして、ボウボウと生えているような地域もありましたので、何とか雑草取りをして、その中に植わっている草木を取って、何か役に立つようなことができないうことになりました。そこで、どこの家庭にもあるドクダミを取って、きれいに洗って天日で乾燥させ、ドクダミのお茶を作るという運動をいたしました。

次のこれは、ちょうど「あいねっと」の会合に便乗いたしまして、各グループに分かれ、各人の言いたいこと、思ってることを話題としました。「このようなことをしたらどうか、ああしたらどうか」と。で、今後の私どもの活動に役立てるという主旨で計画づくりをしました。

これは、最近、少子化時代でアパートや共同住宅が増え、核家族というんですか、若いお母さんたちが移り住んでも、どうやっていいか、どのようにしたらそここのところへ行けるか色々悩んだ結果、ママさんが集まりまして、「坂道がどうか、道はどうだ、こう行けばもう行き止まりだ」とか、それから「どのような施設がここにある」とかいうことを研究しまして、皆さんで子育て支援マップという地図を作っております。

これ以外にも、色々な方にお集まりいただき、まちづくりの地図を作っております。それで私どもの地域主体のまちづくり読本という、このてらお福まちの本を作り、販売して、行事の財政的な援助としています。

これが最後ですが、これは、我々のメンバーの一人が書いた、てらお福まちの宣伝の字でございます。

以上です。どうも御清聴ありがとうございました。